

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsuushin.cool.coocan.jp/> e-mail: shakaitsuushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八―二―九〇四 電話・FAX(03)3299-5367

郵便振替 〇〇一〇〇―九―五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

## 〈もくじ〉

### ■ 巻頭言 ■

情勢について (II) 世界

編集部：2

国労上野反合研方針2023年

：3

闘う労働組合の再生なくして

乗客の安全安心なし！

稲村 守：6

― 苦闘9時間+4時間の物語！ 京都・山科―

巨大風力発電計画に異議あり！

裏に原発の再稼働あり？ 相沢 瑞男：9

原野人さんの本誌文章を新社ネット(奈良)に紹介

：11

― 稲村守さんから届いた来住弘之さんの配信―

読者からのおたより

：12

編集部だより

：12

# 旬刊 社会通信

NO.1377

二〇二三年三月一日号

二〇二三年三月一日発行

情勢 について (Ⅱ) 世界

〔Ⅰ〕 現代も資本主義・帝国主義の時代

- 1、資本主義 すべての人に対するすべての人の戦い、生存のための競争の社会
- 2、独占資本の支配
  - 1) 戦争の根本原因 利潤求める独占資本の競争
  - 2) ふるい帝国主義国 (G7) と新しい帝国主義国 (BRICS) の対立・抗争
  - 3) 不公正な国際秩序の強要と搾取と収奪の強化
  - 4) 労働者階級と勤労諸社会層の状態悪化
  - 5) 感染性コロナによる矛盾激化

〔Ⅱ〕 国際秩序の再編と進行

- 1、軍備競争
- 2、NATO増強
- 3、新しい軍事・経済衝突
- 4、緊張と軍事・経済衝突
- 5、ファシズムと戦争の脅威

〔Ⅲ〕 資本主義の基本的矛盾の激化 SDGs 17項目

- 1、人口減少と膨張
- 2、過疎と過密 都市と農村の対立 (国際的には先進国と後進国)
- 3、不平等の拡大と富の偏在そして戦争
- 4、移民の急増と排除
- 5、食糧危機
- 6、環境

〔Ⅳ〕 ブルジョア (民主主義) 国家の政治体制

- 1、独占と企業の利益守り
- 2、資本主義を維持・延命 (持続) するため
- 3、管理を強化しながら
- 4、資本主義の矛盾の激化から目をそらせるために
- 5、多様性を強調し
- 6、思想攻撃、マインドコントロールを強めている

〔Ⅴ〕 アメリカ一極体制の衰えとまき返し

〔Ⅵ〕 ウクライナ戦争と現代

- 1、歴史の改ざん
- 1) 社会主義・ソ連東欧社会主義国家の否定

- 2) 第2次世界大戦の性格の否定
  - 3) ソ連大祖国戦争の歴史における役割の否定
- 2、スターリン主義の強調
- 1) スターリンは独裁者
  - 2) スターリンはレーニンの後継者
  - 3) レーニンの否定
  - 4) スターリンはヒットラーより悪い
- 3、民族問題の再登場
- 1) 民族問題 学問的規定と実践的方針
  - 2) レーニンの思想

## 国労上野反合研方針 2023年

### 1、労働者を取り巻く情勢

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大による影響で社員の安全が脅かされている中でも、JR東日本は「変革2027」のレベルとスピードをあげるとして、生産性向上や合理化を推し進めている。  
労使関係では、2018年以降、JR発足以来30年以上続けてきた「労使共同宣言」によるJR東労組との協調政策を打ち破り、自前の組織「社友会」に社員を組織しながら労働組合に対抗し、労働者を「会社と社員の関係」だけに困り込もうとしている。
- ② 岸田政権は「新しい資本主義」を標榜しながら、「分配」・巨額のバラマキとともに、賃上げをした企業への優遇税制に見られるように、企業への見返り・成長政策も行おうとしている。  
資本家のための政策をする政権であることはこれまでの安倍・菅政権と変わらない。より危険であるのは、両政権がなしえなかった「敵地攻撃能力の保有」をも公言していることである。沖縄の辺野古新基地建設や平和憲法改悪への姿勢と合わせ、警戒しなければならない。

### 2、反合研の基調

- ① 労働運動は、資本の利潤追求・労働者への搾取強化に対する自然発生的闘いとして起こり、多くの犠牲を出しながら労働者階級は、資本と闘い続けるための「労働者思想」と、継続する団結組織である労働組合の大切さを学んだ。
- ② これに対し資本は、労働者の闘う思想と団結を切り崩すために、「労使協調」の思想に基づく第二組合結成や、労組幹部丸抱えなどによる労働組合の体制内化をたくらみ、今日の労働運動の低迷に至っている。  
我々はこれを、国鉄分割民営化（国労排除の労務政策）と総評解散・連合結成で目の当たりにしてきたが、資本と闘う労働運動を根絶やしにする攻撃は、今なお資本による「生産性向上」などの思想攻撃を中心に、組合幹部・組合員の対象を問わず、やむことはない。

③ 労働者が「健康で文化的な最低限度の生活」（憲法25条）や「人たるに値する生活」（労基法1条）（つまり、「大幅賃上げ」や「合理化反対」）を要求し闘うことは、利潤追求のためには労働者を犠牲にする資本と闘うことを意味する。労働者と資本の利益は相反するのである。だから資本は必死に労働者の立ち上がりを抑えようとし、弾圧・懐柔・分断などあらゆる手を使う。労働者は闘わなければ生きられないし、「労働者思想」を学ばなければ、闘い続けることはできない。

闘い、学び、団結（＝組織拡大）することが、今の国労運動にとって重要であり、反合研は、この立場から国労運動の強化に貢献し、資本と闘う労働運動の再生を目指す。

### 3、我々はどう闘うか

#### ① 春闘・期末手当など、大幅賃上げに向けた闘いについて

ア、「生活実態からの賃上げ要求」が基本である

国労の賃金アンケートが形骸化され、生活実態からの要求額が「高すぎる」という理由で、機関の要求決定では無視されている。しかし我々が「生活実態」を問題にするのは、生活実態からのナマ要求額を大事にする意味もあるが、それ以上に、「低賃金であること」を具体的に認識し、低賃金に怒りを持つためである。怒りのない職場に、団交を後押しする力はなく、怒りのない役員では会社と渡り合えない。

イ、会社は莫大な利益剰余金を抱えている

賃上げ要求の場合特に「原資」が問題になるが、会社は莫大な利益剰余金を抱えている。確かにそれらは、必ずしも現金預金の形はしておらず、駅や車両といった形で存在するが、労働者から搾取した剰余価値の蓄積以外の何ものでもない。会社は「コロナ・減収減益」を理由に要求を拒むであろうが、株主にはそれでも配当を行っていること、安全のためだけではない投資もしていること、従って「原資がない」とは言えないはずである。

ウ、「価値を生んでいるのは労働者の労働である」ことに確信を持つとう

列車を動かし、価値を生んでいるのは労働者であること、株主は何の価値も生みだしていないことについて確信があれば、「ステークホルダー」などという、労働者も株主も一緒くたにしたような議論に惑わされることはない。

賃金とは何か、会社の儲けはどのようにして生じるのかという、基本的な学習が大切になってきている。また、労働者同士の競争激化にならないような、人事賃金制度が必要である。従って、労働者に昇職・昇給の夢を見させながら、責任を押しつけ、管理強化、全体の賃下げを狙う、能力主義や成果主義の強化に反対していく。

エ、賃金水準は、労資の力関係で決まる

「生活できる賃金をよこせ」と要求する労働者と、「今は会社に余裕がないから我慢を」と一歩も譲らない会社。団体交渉での駆け引きは平行線とな

る。この場合、ことを決するのは労使の力関係である。仲間内にひび割れが少ない、団結力が強い方が勝つ。労働組合は、大衆闘争・ストライキにより、労働者意識と団結力を強めなければならない。

## ② 反合理化闘争強化に向けて

ア、「柔軟な働き方」「生産性向上」など、諸合理化の狙い

会社は、機械化・無人化・兼務（多能工）化・業務委託等の合理化施策により、要員の削減を目指し、より少ない人数での増産・増発を目指している。

合理化がもたらす、労働者への犠牲（雇用破壊、労働条件の低下）、乗客へのサービス低下、列車運行の安全性低下について、具体的に明らかにし、労働者、利用者、地域に対して暴露していく。

イ、健康で明るく働き続けられる職場を作る闘い

合理化が進めば、健康で明るく働き続けることはできない。「健康で明るく働き続けられる職場」を創るための日常的な闘いが、反合理化闘争の土台をつくる。

仕事量・長時間労働・要員不足（そして低賃金までも）は一体のものである。日常的な仕事量の多さ、時間外休日労働の多さの点検をもとに、労働組合の闘いを「合理化反対」の旗印の下、要員獲得闘争、権利破壊・労働条件低下を許さない闘いへと組織していく。

具体的には、労働時間・休日・休憩などを巡る労働法上の権利の確立、労基法や36協定に基づく点検摘発の取り組み。職場の安全衛生の強化、パワハラ・セクハラ撲滅、安全衛生委員会の取り組み。

そして、組合所属を問わない仲間同士の競争排除、仲間としての団結作り。年に1回は行われる「職場過半数労働者代表選挙」に立候補し、国労らしい主張を掲げて闘う。

ウ、団体交渉の形骸化を許さない。

会社は分割民営化以降、交渉事項・交渉委員・交渉時間などに制限をかけ、JR東労組優先などの差別的取扱いにより、要求を出しても交渉を設定しない、実施日間近になってからの合理化提案など、あらゆる手法で、団体交渉を形骸化させてきた。こうした会社の姿勢を許さず、職場の切実な労働実態が会社に届くような、職場での現場長交渉、支社・本社段階での団体交渉を目指していく。

## ③ 国労の未来を担う青年の組織化、成長を見守る

ア、「代表選挙」で支援してくれる若い仲間、国労加入を勧め、組織を拡大する。

イ、加入してくれた青年労働者には、会社から繰り返し思想的な働きかけが行われ、会社側への抱き込みと脅しがかけられ、転勤などにより孤立させられる。このため、若い国労組合員を守り育てることが、組織拡大とともに大切な我々の仕事になる。

ウ、何よりも、「なぜ、労働組合に団結するのか」「資本主義社会における資本

家と労働者」「職場を変え、社会を変える」といった、権利意識、労働者意識、労働者思想が、長い目で見て、自分や仲間との団結を支えることになる。

「資本と賃労働の対立」という資本主義の本質を学び、労働者思想の強化を図れるような学習会を強化し、組合機関でも取り組めるよう努力する。とりわけ国労組合員が退職する中、若い組合員が会社によって孤立させられ展望を失うのを防ぐためにも、新規加入組合員の会社からの自立性、国労の将来への展望が持てる階級性、若い組合員同士が交流し助け合える協調性が求められる。

とりわけ他職場との交流は、視野を広くさせる。若い組合員が成長できるための学習と交流、「組織強化」の課題は、機関が最も重視しなければならぬ課題である。

#### ④ 反合研としての理論強化の取り組み

反合研としては、社会発展の歴史としての唯物史観、搾取と剰余価値を中心にした資本主義社会の仕組みを学ぶ学習の強化に取り組み、自分の取り組みへの総括・自己批判と仲間同士の突合せ・相互批判を通じ、お互いの成長と団結を強化する。そのために、月一回程度の学習会（会社内外の情勢討論を含む）を基本にしながら、年一回の合宿、総会を兼ねた新春学習交流会を取り組む。

また、平和憲法や労働法制を守る闘いを通じ、新東京支部の発展強化のためにもこれまでの、旧三支部交流会「東京支部交流会」を発展継続させる。

#### ⑤ 当面する反合研の取り組み

ア、JR本体の若い労働者の働かされ方（人事賃金制度や実際の労働実態）に関心を持ち続ける。

人間的なつながりを持ち続け、必要なアドバイス・援助を行う。

イ、自分の働く場（エルダー職場など）において、周りの仲間と共に、労働条件改善の闘いを作る。

ウ、それらを通じて、仲間を国労組合員へと組織し、科学的社会主義を学ぶ労働者へと共に成長していく。

エ、我々は、労働組合内で懸命に活動するであろうし、プロレタリアートの間にマルクス主義の革命理論を普及させるために、『階級組織の『とりで』を作るためにあらゆる舞台で活動する。』（国労上野反合研）

闘う労働組合の再生なくして乗客の安全安心なし！

― 苦闘9時間 + 4時間の物語！ 京都・山科 ―

これがJRの実態だ

JR西日本山科乗客閉じ込め事件・1400人！

最大10時間（稲村は7時間）、その間8両の列車で16人が救急搬送その後暗黒の線路上、凍結積雪のレール上に起立1列で2時間放置！ そして午前4時…停車から9時間で山科駅に到着し、地下通路で新聞紙敷いて寝かされた人は250人！

小生・稲村がついに被害当事者・乗客に！ 2023年1月24～25日

原因は保線労働者の人減らし合理化と経験者不足と経費削減！

国労保線分会の圧倒的縮小・解体がこのひどい事件を生み出した

稲村は超満員通勤列車で窒息寸前7時間！+雪のレールの上を徒歩で2時間！  
合計9時間がかりでJR山科駅にようやく到着。JRが午前4時に案内した宿泊場所は板の間で枕も布団も毛布も無し！「JRの提供物は菓子1ヶ！」と思ったが、これとて京都市提供で、JRは舌も出さない。

### 「少しお待ちを」から4時間も

私は2023年1月24日（火）午後7時くらいの京都駅発湖西線に乗車し帰宅するところ、山科駅手前1・2キロメートルくらいの「御陵」（みささぎ）の少し西（京都駅より）で乗車していたJR普通電車が突然停止。4時間の間に、車掌と運転士が泣きそうな声出して、「雪のためポイント2か所の凍結積雪で、1か所は復旧したが、もう1か所を懸命に復旧しているので少しお待ちを！」と言ったきり4時間。

国労新幹線保線労働者OBの友人にその場で電話したら、「人員削減と経験者不足のみが原因です。天気予報で分かっていたんだから、少し金かかるけど事前にあつたためにおいて（融雪器）、降雪あれば経験を積んだ保線労働者を集中して雪をどければ何の問題もない。そして、現場経験と知識の無い幹部が自分の責任にならないように、だからだ会議をしているので、時間ばかりかかる。しかし4時間であり得ない！」と。

### さらに3時間

列車停止から4時間以上過ぎた午後11時過ぎに、「みなさんに列車を降りていただきます」と。8両編成の近江舞子行き（JR西日本は京都駅からこの1月24日午後2時前からは、北の高島方面へは運休し、近江舞子までの運行となっていた）の各車両1～2名ずつは救急患者が発生していた（この事件で救急搬送は13名となっているマスコミ報道だが、この私の乗車した列車ではそのうち10名くらいのようなだが、JR西日本が全容を隠しているのもっと多い報道もあるし詳細不明。国労京滋地区本部によると16名）。

もう少しで、私も蒸し暑く窒息状態になるところだった。ところが、客を降ろすと言明してから、最後尾にも梯子を付けたので比較的早く降車した私でも（たまたまトイレに行くために8両列車の4両目に乗車していて、最後尾の1つだけのトイレに懸命に客をかきわけ行っていた。24時頃。先頭1ヶ所から客を降ろすとのことで、私の降車はそのため最後とあきらめていたら、途中で梯子を見つけて最後尾にもつけてきたので）さらに3時間待ち。

救急患者優先のため（これは当然だが）三条通りに降りる一人用梯子が無茶苦茶時間がかかる状態だった。風と雪がピタツと止まったからいいようなもの、一両200人近い1400人の乗客は、蒸し暑さと酸素不足から一転して真っ暗で寒さと雪の中、2時間ジーンとして一列で延々と待つ。日本の労働者はなんと大人しい賃金奴隷なんだろうか。文句も言わず、暑さも寒さも耐え忍ぶのだ。最も言う相手がいなかったとい

うのもあるが。

## 詐欺師集団 JRと京都市

そしたらなぜか途中で午前1時半ころ、行けなかった山科駅にも歩いて一直線に行けることとなり、降車して2時間、停車してから9時間で午前4時、京都駅の次の山科駅到着。またここでみんな真面目に改札のため駅員に対して並ぶので、私は駅員に今後の保障の質問をしたら、改札出てもらえばご案内します、と。

タクシー代請求しても出さないというし、山科駅に停車していた北陸線特急・サンダーバードに入りこみ仮眠することはさすがに「自粛」して（そのときはゆったりしていいなと思ったが）、停止していた「京都市」普通電車2本は前から後ろまでチェックしたが、満車でみな仮眠中だったし、「タクシー代は出さないのなら（もつともタクシーは1台も待ってないのだが）、これからどこに連れていくのか？」とJRに問うと、「京都市さんが会議室にご案内していただけます」と。

「その会議室の場所は？名前は？」と聞いても、JR社員は「さあ知りません」というので、改札出て、案内者の「京都市」の人らしい人に聞くと、大きな声を出すものすごく手なれた風の男が、「私はボランティアで何も知らないのに私に聞かないでください！」と言いながら、地下通路をくだり、皆を案内していく。あんなここでは普通駅長が出てきて頭下げ、助役がハンドマイクで「（迎えが来れず）帰宅できない方へのご案内」というのをやるものだが、何も無い（後から考えるところがJRの巧妙な手口だったのだ）。何も無いからみんな生まじめに改札定期券、イコカの処理のため並んでしまう。

しようがないから私は黄色いゼッケン付けたその「ボランティア」と称する男についていくと、百メートル歩いてまた地上に出たすぐのビルに入れこまれ、その2階が後で見たらわかったんだが、「アスニー山科」であった。

山科駅前で行き先を言うと、私などが「目の前にホテルあるのに何でそんなところくんだ」とでも言うと思ったからのことであろうか？ 詐欺師集団、JRと京都市との見事な連係プレーでこの1400人（その瞬間は総人数と「割り振り」等はもちろん知る由もなかった）を安上がりの、布団も毛布も枕もないダンス教室やるような板の間に寝かして、コンビニ菓子1ケずつ配り、飲み物は廊下にありますと案内し、終わりだった。

ちなみに小生は京都市から提供いただいたこの小さな菓子1ケだけで、飲み物は遅れて廊下に出たらもうなかった。なんとかいいう薄いアルミ箔のような毛布替わりのものを配っていたようだったが、それも私がついたときにはなかった。

## 一睡も出来ず 職場へ

その後3時間半一睡もせず、できず、寝た格好をしていたが、24度設定で実に寒く、携帯ホカロンをたまたま持参してたのとジャンパー着てたのでそれをかぶって寒さをこらえた。その間、京阪電車動いた、京都市営地下鉄東西線動いたと大声で言われれしずつ人減らしされ、気づいたら30人の部屋が2人だけになっていた。それで、ア



スニー山科出口に所長か区長らしきどこぞで見たことある人物がいたので、苦情のポインントを述べ、そこを出た。午前7時半過ぎのことだった。

徒歩5分のJR山科駅に行くと、午前中のJRの復旧のめどは全線立ってないとの張り紙あり。聞いたなら、市営地下鉄東西線がJRの振替輸送しているというので、それで二条駅まで行つて、徒歩20分の京都総評・労働相談センターに午前9時に出勤した。

JR高槻駅で前夜、同じころ2時間待ちした友人は高槻のホテルに泊まったなら、JRがホテル代を出すとメールが来たという（これは私の勘違いで、その友人の会社が出すとのことだったが、「車中泊はダメ」とのけちな会社で、車中泊したので何もないとのこと!!）。1人1万円のホテル代を計1400万円ただにして、チョコレート1ヶで済ませたJR西日本！（これもJRは出していなかった!）国鉄分割民営化直後のJR西日本社長の年収は7000万円だったが、今はいくらになつてゐるのだろう。分割民営化での国労差別攻撃による保険労働者の闘う組織の解体と経験者不足がこのひどい事件を生み出した原因のすべてである。

闘うまともな労組である20万国労の再生でしか、私たち乗客の安全安心は期待できないのであろう。振替輸送で地上に上がったところの、二条駅前の雪だるまだけが可愛らしかった。

（稲村守）

付記：この「10年に1度の寒波」による交通網直撃、とりわけJR西日本の京滋の15本、7000人の乗客被害の最たる列車に小生が乗車していて、京都新聞でも1月26日1面トップ記事始め他5面にわたって報道されている。停車位置から山科駅まで京都新聞では1・2キロメートルとある。たった1・2キロメートルを2時間かけさせられた。

京都市立の生涯学習施設「アスニー山科」には約200名収容されていたのはそのとき私は知る由はなかった。地下通路で約250名。アスニーでの簡易毛布や水（両方とも私はもらえなかったが）とお菓子1ヶはJRと思っていたら、京都市提供だった。しかしそれとて、「まだまし」で、私より遅れた人は地下通路に新聞しいて250人も寝かされたんだ！

その上はどうせガラガラの立派な大きなホテルがあつたのに。1月25日にJR西日本社長が謝罪会見と思つたら担当部長だった。翌、26日にたまたま定例記者会見が東京であり、社長が一応頭を下げてゐる。頭下げて年収7000万円+αとは結構なことだ。この日に原発事故が起これば避難は不可能だった。

1月26日も大津駅で列車下から煙が出て1200名乗り換え、私の湖西線はそれとは別に、サンダーボードの遅れでこの朝30分職場に遅刻。27日も山科駅の信号機の故障で1万数千人が被害に遭い、朝、また遅刻した。特に、改めて40年越え経年劣化した法律で禁じられている老朽原発再稼働は停止すべきだ。（END 2023年1月28日）

## 巨大風力発電計画に異議あり！

### 裏に原発の再稼働あり？

今、宮城では奥羽山脈沿いに、北は岩手県境栗原市から南は福島県境白石市に至る130kmにわたって、巨大な風力発電施設の計画がなされている。また、沿岸には、北は気仙沼市から女川、石巻を経て福島県境山元町に至るまでの計画があり、施設に

よっては、宮城・山形、宮城・福島にまたがる計画もある。再生可能エネルギーとして注目を浴びている施設ですが、課題が多い。

この計画がすべて実施されるとなると、宮城県のいたるところに風力発電の風車350基が回っていることになる。そして、この建設に携わっている企業は、〇〇エナジーとか〇〇パワーなどという会社名だが、ネットで検索すると親会社は「三菱、住友、日立、豊田」などの名前が出てくる。資本は何でも儲けの対象にしようということか、一方では「巨大な太陽光発電」である。両方とも、山肌を削り設置する方法がほとんどである。

### 地域住民の建設反対運動

この計画に対して、当然のことながら、各地で住民による反対運動が起きている。山間地なので猛禽類やクマなどの動物、サンショウウオなどの水生生物、渡り鳥など、絶滅が危惧されている植物類などが生息しているので、環境破壊は許さない、ということである。また、各地にはダムなどがあり、水源地破壊も心配されている。この運動は、各自治体も巻き込み多くの市町村の首長が「建設には反対」を表明している。

### 村井宮城県知事の態度 再生可能エネルギーより原発に

このことに対して、村井知事は「地域住民の声をよく聞き、環境破壊につながる建設計画には、賛成できない。」と表明している。しかし、彼は住民の声を聞かずに全国で一番先に「水道の民営化」を推進した知事であり、「女川原発の早期再稼働」をいち早く表明した知事である。とても、住民の命や地域環境を最優先に考えようとしているとは思えない。

うがった見方をする、村井知事は「原発の稼働を最優先」にするため、障害となる「再生可能エネルギー」の排除に走っていると見ることできる。「風力などの再生可能エネルギーが住民の反対運動にあっている。」「様々な面で環境破壊につながる恐れがある。」「こと、また、最近のエネルギー危機を利用して原発の再稼働を積極的に進進しようとしている。

### 原発反対、再生可能エネルギーの推進を

おりしも、この報告を書いている時に、福島第一原発から出る汚染水の海洋放出のニュースが流れた。放射能を含む汚染水の危険性は、福島第一原発事故の裁判を闘っている國分さんの報告にあるとおりだ。放射能を薄めれば安全と言うことは「原発安全神話」と同じで、濃淡には関係なく危険なことだ。また、汚染水放出は「風評被害を心配」ともあるが、風評被害ではなく実害が起きるから反対しているのだ。

東日本大震災で嫌と言うほど経験した、原発事故被害を多くの人が忘れてしまっているのか。

私は、改めて原発の廃棄とより良い再生可能エネルギーへの転換を訴えていかなければと思っている。

(宮城 相沢 瑞男)

## 原野人さんの本誌文章を新社ネット(奈良)に紹介

―稲村守さんから届いた来住弘之さんの配信―

原様

以下は奈良の来住弘之さんから原さんにお送りせよとのことでした。

来住さんは48年来の同志です。48年前社青同立命館大学院で一緒でした。大学卒業後、日本社会党奈良県本部書記で「最後」まで全うし、その後、自営業(土地家屋調査士)をしながら、新社会党奈良県本部の中で党の基本路線を守る活動を続けています。稲村

稲村様

いつも貴重な資料、情報をありがとうございます。

田舎? 暮らしのため、中央や他の地方の情報がほとんど入ってきません。

社会通信の原さんの文章を奈良の新社ネットに紹介しました。ご参考になれば幸いです。

もし原野人さんのメールアドレスをご存知なら、お手数ですが私が文章を勝手に転載したことを原さんに転送メールで知らせていただけないでしょうか。来住

配信紹介文は以下のとおりです

みなさん 「社会通信ホームページ」No.1373(2022年12月1日発行)に現在の新社会党指導部の誤りについて明確に指摘した原野人さん(元中執)の文章が掲載されているのでご紹介します。

わが党指導部は9年前の原和美選挙で二重党籍違反の背信行為をしたころからおかしくなりはじめました。その後実践面の誤りが理論面の混乱、誤りにつながっています。

なぜか「宇野理論」に近づいたかと思えば「置塩理論」出身の松尾匡氏のヘリコプターマネー(ベアシックインカム)に飛びついたり、その財源での弱さをMMTなる珍論で繕おうとしたりしていました。

そして現在にはベアシックインカムをうやむやにして、斉藤幸平氏のエコロジカル社会主義を信奉しているように見えます。斉藤氏はマルクスの膨大な遺稿の中からマルクスが「生産力至上主義者」から「脱成長コミュニズム」に変身した状況証拠を発見したのだそうです。

しかし斉藤氏はその「大発見」の代わりに階級対立や搾取、社会主義革命の必然性などマルクス主義の真髄というべきものを見失っています。斉藤氏の脱成長コミュニズムなるものは、もはやマルクス主義とは無縁の一種の改良主義に陥っています。ただその本質をグリーンニューディールとかコモンとかエッセンシャルワークとか目新しいコトバで着飾っているにすぎません。(詳しくは原野人著『牙を抜かれたマルクス主義』を読んで下さい。)

さらに問題なのは、原さんも触れています。わが党指導部は意見の合わないコラ

ム筆者を「新社会」紙面から排除してしまったことです。それこそ共産党ばりの上意下達の非民主主義党になることで党員の離脱を招く、党の自殺行為にほかならないと思います。

同志のみなさんに、あらためて「自分の頭は自分の肩の上に」（向坂）において、多数意見に無批判について行くのではなく、自分の頭で考えてみられることを切に願います。  
(来住弘之)

社会通信ホームページ

<http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/index.html>

## ◇ 読者からのおたより ◇

**岸田首相の暴走** 国会軽視の閣議決定を連発し議論のないまま防衛費倍増である。現在世界第9位の軍事予算であるが、GDP＝国内総生産の2%に達する予算措置を講じるよう指示しています。GDPの2%の軍事費となれば1兆円規模となり、世界第3位の軍事予算となる。

日本は侵攻戦争を続けてきた反省の上に78年前に敗戦となり、1947年新憲法が制定されてから一度も戦争に参加することなく平和憲法を守ってきた。

軍隊を持たないから平和を守る事が出来ないではなく、軍隊を持っているから摩擦が起き平和を維持できない。1945年8月15日から78年の歴史が証明しています。

しかし、日本国憲法で、戦争の放棄と戦力の不保持、つまり、陸軍、海軍、空軍、または、それに準ずる実力部隊のことを意味するとされているのである。

なぜ日本は過去の敗戦の反省を願みず、莫大な軍事予算を組み立てようとしている本音はどこにあるのか、徹底した国民的議論の高まりが必要と思うところです。

また、それに準じてウクライナ侵攻戦争が勃発し、エネルギー減となったから原発再稼働、新設増設等々と福島原発事故の後始末もできないまま暴走発言し、このままだといずれ日本全国が原発墓場となり生命を脅かす危険な国と証される事になりかねない。

現在、福島原発事故に対する国、東電の責任を問う裁判闘争が続いています。最も重要な段階に入っています。私は軍事予算増強と原発問題は一体として取り組む必要があると考えています。皆さまのご意見を頂きたいと思っていますので宜しくお願いします。

(原発事故被害者相双の会 國分富夫)

## 編集部だより

▽巻頭言とした「情勢についてII」は、前号の「情勢についてI 国内」につづくものです。次号でさらに詳しく論じます。

▽『社会通信』発刊は1977年11月です。インターネット配信は2016年です。ですから、2023年通算46年にもなりました。一号の欠号、遅れもなく発行をつづけてきました。

▽突然の出来事で超多忙に、さらに地域も「生産性向上運動」で、これまでの「公助」&「福祉」切り捨てが容赦なく、少しばかり疲れました。疲れを癒やすために、当面、『社会通信』発行頻度を減らすことにしました。

▽心配かけた皆さまにはお詫び申し上げます。しばらくの間、月1回くらいのペースでゆっくりと進んでいきます。